

◎女性の負担軽減・ヤングケアラーの支援を推進!

●女性の負担軽減を!

赤間: 生理の貧困の現状を把握して、困っている方々を、必要な福祉的支援につなげる取組を行うべきではないか。
知事: 経済的困窮などの理由により生理用品を入手できない「生理の貧困」については、生理用品を配付するだけでなく、配付を通じて福祉的支援につなげることが重要。現在、生理用品の適切な提供方法を検討するため、県立のモデル校において、複数の配付方法を試験的に実施し、検証を行っています。

●ヤングケアラーの実態把握と適切な支援の推進を!

赤間: 本県におけるヤングケアラーの実態はどうか。実態把握の調査を行うべきではないか。
副知事: ヤングケアラーの実態については、県独自の实態把握が必要と考えます。今後、有識者の意見なども伺いながら、効果的な実態把握のあり方を検討してまいります。
赤間: 教育現場におけるヤングケアラー支援につながる取組はどうか。
教育長: スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用を促進し、早期発見や支援機関に円滑につながるよう努めているところです。庁内連絡調整会議を活用し、知事部局と十分に協議を行い、適切な対応を図ってまいります。

(赤間代表質問: 千葉日報に掲載)

代表質問

生理用品の配布方法モデル校で試験的に実施

赤間議員は、知事の政治姿勢について「生理の貧困の現状を把握し、困っている人々に対して必要な福祉的支援につなげる取組を行うべきではないか」と質問した。

熊谷知事は「生理用品を配布するだけでなく、配付することを通じて福祉的支援につなげることが重要とし、現在、適切な提供方法を検討するため、県立学校のモデル校で複数の配布方法を試験的に実施している。また、福祉と教育が連携し、支援が必要な子どもや家庭を把握し、具体的な支援につなげるガイドブックの作成を行っていく」と答弁した。

また「本県におけるヤングケアラーの実態はどうか。実態把握の調査を行うべきではないか」と質問した。

滝川副知事は「ヤングケアラーについては、適切な支援策を検討するためには、県独自の实態把握が必要」とし「県では、国の報告内容や実態把握に向けた課題等の情報共有を図っているが、実態把握に当たっては、家族の介護や世話を担う子どもたちだけでなく、福祉サービスの支援者等も対象にする必要がある。今後、効果的な実態把握の在り方を検討していく」と答弁した。

赤間正明議員
(公明党)
市川市

♥ペット殺処分ゼロに!

赤間: 不幸なペットをなくすため「殺処分ゼロ」に向けた強いメッセージを発信すべきと思うがどうか。
副知事: 飼い主に対してペットをその生涯にわたって飼い続けることや、無計画に繁殖させないことなどを呼びかけ、ボランティア団体と連携することなどにより収容動物の譲渡促進を図ってまいりました。今後、「殺処分ゼロ」を目標に掲げ、適正飼養の普及啓発に努めてまいります。

赤間正明・公明党代表質問行う!



(代表質問を行う、赤間正明)

安全・安心な生活を推進!

防災対策、新型コロナウイルス感染症対策、医療、福祉、教育問題等について質問しました。また、この度の代表質問により、防災対策の中の被災者生活再建支援制度が改正され、(令和3年8月20日施行)要件が大幅に緩和されました。

速報 防災対策: 被災者生活再建支援制度を改正し要件緩和へ!

赤間: 台風被害などの災害時に、被災者の生活再建を支える主要な支援策である「千葉県被災者生活再建支援事業」の適用要件の緩和について、市町村の負担を極力抑え、速やかに実行に移すべきと考えられるがどうか。
知事: 千葉県被災者生活再建支援事業については、現在、適用要件の緩和や支援対象の拡大に向けて、制度設計を行っているところです。今後、市町村と調整の上、台風シーズンに間に合うよう、早急に制度改正を行う予定です。

◆速報: このたび県では、災害により住宅被害を受けた方への支援制度につき、支援の対象を拡大するための改正を行いました。

生活再建支援制度改正 令和3年8月20日施行

	改正後				現行制度			
	世帯	住宅被害支援金	住宅再建支援金	合計	世帯	基礎支援金	加算支援金	合計
対象となる災害	○全壊被害が県内で10世帯以上 →県内すべてを支援対象 ○全壊被害が1市町村で5世帯以上 →当該市町村を支援対象 ※従来の適用要件(連たん地域)も継続				連たんする市町村の合計で全壊10世帯以上 →連たん地域を支援対象			
対象となる住宅被害	①全壊(損害割合50%以上) ②半壊解体 ③大規模半壊(損害割合40%台) ④中規模半壊(損害割合30%台)				①全壊(損害割合50%以上) ②半壊解体 ③大規模半壊(損害割合40%台)			
支援金額 (住宅被害支援金 + 住宅再建支援金)	全壊・半壊解体	100万円	建設・購入 200万円 補修 100万円 賃借 50万円	300万円 200万円 150万円	大規模半壊	50万円	建設・購入 200万円 補修 100万円 賃借 50万円	300万円 200万円 150万円
	大規模半壊	50万円	建設・購入 200万円 補修 100万円 賃借 50万円	250万円 150万円 100万円				
	中規模半壊	なし	建設・購入 100万円 補修 50万円 賃借 25万円	100万円 50万円 25万円				
	実施主体・費用負担	市町村 【費用負担】 県8/10、市町村2/10 (県から市町村に財源を補てん)					市町村 【費用負担】 県10/10 (県から市町村に財源を補てん)	



公明党千葉県議会議員 赤間正明
 ◎ホームページ・<http://www.komei.or.jp/km/akama/>
 ◎メール・masaakia36@gmail.com



赤間・LINEです。

◎赤間まさあき・プロフィール 昭和36年10月、宮城県仙台市生まれ、創価大学卒業、千葉県議会議員6期目、文教常任委員会委員、公明党千葉県本部幹事

知事の政治姿勢について質問！

◎県民に開かれ、信頼される千葉県づくりについて！

◎持続可能な千葉県づくりにSDGsの視点を！

●県民に開かれ、信頼される千葉県づくりを！

赤問：「県民に開かれ、信頼される千葉県」づくりについて、知事の見解はどうか。

知事：県政運営に当たっては、県民への説明責任を果たし、県民の理解と信頼を深めながら各種施策を推進していくことが重要と認識しております。千葉県情報公開条例において情報公開の総合的な推進を掲げ、県民からの請求に対して行政文書の開示を行うほか、県の広報紙、ホームページなど多様な媒体による情報提供を行っているところです。私としてはSNSなど身近で拡散性も優れた媒体も積極的に活用しながら、県民生活にかかわる情報や県政運営に係る情報などについて、適時・適切に提供できるよう努めてまいります。

●文化・芸術を守り育てる魅力ある千葉県を！

赤問：「文化・芸術を守り育てる魅力ある千葉県」を目指すべきと思うがどうか。

知事：広大な海や緑豊かな自然に恵まれた本県には、縄文時代から、遺跡、伝統芸能、郷土料理、祭り、馬術等、様々な分野で固有の文化資源が引き継がれております。今年度、「千葉県文化芸術の振興に関する条例」に基づく基本計画を策定する予定であり、その過程で、貴重な文化資源等を活用した魅力ある千葉県づくりについて検討するとともに、文化芸術の一層の振興を図ってまいります。

●持続可能な千葉県づくりを！

赤問：持続可能で豊かな活力ある千葉県を目指すに当たり、SDGsの視点や考え方を次期総合計画に盛り込むべきと考えるがどうか。

知事：SDGsは、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に対して統合的に取り組むものであり、その考え方を取り入れていくことは、持続可能な県づくりを進めるうえで、重要。新たな総合計画の策定に当たっては、SDGsの視点や考え方を踏まえながら、検討していきたいと考えております。

赤問：2050年脱炭素社会実現に向けた省エネルギーの促進や、再生可能エネルギーへの転換に加え、廃プラスチックの削減・再利用など、資源循環への実効性ある取組を行うべきと考えるがどうか。

知事：住宅への再生可能エネルギー設備等の導入に対する助成や、事業者向けの省エネセミナーの開催、県民向けのSNS等を活用した情報発信などにより、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでまいりました。今後は、地球温暖化対策推進法の改正趣旨を踏まえ、実行計画の見直しを行うこととしており、脱炭素社会の実現に向け、様々な主体と連携し、更なる取組を推進してまいります。

●一人一人の多様性を尊重し、共生できる千葉県を！

赤問：「一人一人の多様性を尊重し、共生できる千葉県」を目指すべきと考えるがどうか。

知事：男女共同参画や女性の活躍促進だけでなく、障害のある方の社会参加や性的指向・性自認への理解促進、多文化共生などにも積極的に取り組んでまいります。さらに、東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、そのコンセプトである「多様性と調和」をレガシーとして生かしながら、本県のダイバーシティ推進に係る計画を策定し、共生社会の実現を目指してまいります。

医療・福祉・教育の充実を！

◎学校生活・障害福祉・難病対策等を推進！

●「学校生活アンケート調査」の回答を郵送でも可能に！

赤問：小学生に対する「教師による体罰・セクハラ」を防止するため、希望すれば千葉県主催の「学校生活アンケート調査」の回収方法として「郵送方式」等を選択可能とすべきと考えるがどうか。

教育長：回答者の心情に配慮するため、集計担当以外の職員が見ることのないよう工夫しているところですが、保護者などから「直接学校には話しづらい」と伝えてこられる事例も見受けられ、今年度の調査からは、児童や保護保護者の判断で、直接県教育委員会に回答を郵送する方法も選べることとし、子どもたちの安全・安心な学校づくりに役立ててまいります。

●ドクターヘリ運航事業に適切な予算措置を！

赤問：「千葉県ドクターヘリ」に、運航実績に基づく適切な予算措置が必要と考えるがどうか。

副知事：令和3年度に補助制度が拡充され、全国一律の補助から年間飛行時間に応じた補助に改められることとなりました。今後もドクターヘリが安定的に運航されるよう、引き続き基地病院を支援してまいります。



(ドクターヘリ)

●デジタル障害者手帳の利用促進を！

赤問：近隣自治体では、横浜市も今年からカード化が実現しているが、本県におけるその後の検討状況はどうか。

副知事：障害者手帳とマイナンバーカードとの一体化により各種手続のデジタル化が実現すれば、障害のある方の利便性が大きく向上すると考えられ、県としても、障害者手帳システムの改修を行うなど、必要な取組を進めているところです。

●メンタルヘルス・KOKOROBOを利用して、心のセルフケアの推進を！

赤問：AIを活用して心の状態を判定するKOKOROBOを利用し、セルフケアを進めるべきと考えるがどうか。

副知事：自らの心の健康状態を把握できるセルフチェックは、重要です。KOKOROBOについては、実用化に向けてセルフチェック後のサポート機能について効果の検証が行われていると聞いており、今後の動向を注視してまいります。

●「ち～バリューカード」を「シニア版チーパスカード」に発展させ健康づくりを！

赤問：「ち～バリューカード」を「シニア版チーパスカード」のような高齢者の健康づくりカードに、発展させるべきと考えるがどうか。

副知事：ち～バリューカードが、高齢者の健康づくりにも有効に活用されるよう、引き続き市町村と連携の上、提供されるサービスの拡充など、魅力の向上に努めていきたいと考えています。

●児童相談所の機能強化で、虐待から子どもを守り、安心した生活を！

赤問：児童相談所の機能強化により、児童虐待から断じて子どもを守るとともに、一時保護所においては虐待の傷を気にせず、子どもが安心できる十分な配慮が必要と考えるがどうか。

副知事：県としては、虐待から子どもを守るという強い意識のもと、一人一人の状況に応じた適切な対応が図られるよう、現場の意見も踏まえ、必要な環境整備を行ってまいります。

●かずさDNA研究所における指定難病の遺伝学的検査の推進を！

赤問：かずさDNA研究所が取り組んでいる指定難病の遺伝学的検査について、現在の進捗状況はどうなっているのか。

副知事：全国400を超える医療機関等から、年間6千件を超える検査を受託。このような技術を活用して、新生児の難病のスクリーニングを行っており、ライソゾーム病に加え、全国に先駆けて、脊髄性筋萎縮症のスクリーニングも開始。かずさDNA研究所の研究成果や高度な遺伝子解析技術が、医療、農業、教育といった幅広い分野への貢献につながるよう、引き続き支援してまいります。